TOKYO BAPTIST CHURCH 東京バプテスト教会
Weekend Message
週末メッセージが聞けます http://tokyobaptist.org/sermons/

神さまの知恵　独身の人たちへ
コリントの信徒への手紙一 7:25-40

2025 年 3 月 29 日 & 30 日
余沢　武 牧師

I. はじめに

こんにちは。今週の月曜日、4 歳のアイリちゃんが 10 時間の脳手術を受けます。祈りましょう。

私たちはコリントの教会の中には、すべての性的関係を悪と思い、離婚さえ考えている人たちがいたことを学びました。パウロは彼らに、結婚生活に留まり、結婚生活の義務を果たし、おのおの召されたときの状態で神に仕えるように促しました。今日は、未婚と独身の方々に焦点を当てます。

II. 独身の人たちへ

（1） そのままでいなさい

1 コリント 7:25 でパウロはコリントの教会のまた別の質問に答えました。

「[25] 未婚の人たちについては、私は主の命令を受けていませんが、主の憐れみによって信任を受けた者として、意見を述べます。」

「未婚の人たち」という言葉は、男性または女性、独身または婚約している人のことです。しかしコリントの未婚の男性たちは不道徳なローマ文化の中にいた以上、童貞だった可能性は極めて低いです。そのため、ここにある「未婚の人たち」は恐らく、独身と婚約している女性たちを指しているのでしょう。

古代世界の婚約は、現代の婚約以上の意味を持っていました。法的には、たとえ彼らが性的関係を持っていなくても結婚しているとみなされ、関係を解消するためには離婚が必要だったからです。ヨセフとマリアにもありました。

おそらく、独身の人たちは独身のままでいるように、また、婚約している男性には婚約を解消するように圧力がかかっていたのでしょう。そして、彼らはパウロにアドバイスを求めていました。

1 コリント 7:25-28 を読みましょう。

「[25] 未婚の人たちについては、私は主の命令を受けていませんが、主の憐れみによって信任を受けた者として、意見を述べます。[26] 現在迫っている危機のゆえに、人は現状にとどまっているのがよいと思います。[27] 妻と結ばれているのなら、それを解こうとしてはいけません。妻と結ばれていないなら、妻を求めてはいけません。[28] しかし、あなたが結婚しても、罪を犯すわけではなく、おとめが結婚しても、罪を犯すわけではありません。ただ、結婚する人たちはその身に苦労を負うことになるでしょう。私は、あなたがたのためを思って言っているのです。」

パウロは、「私は主の命令を受けていません」と言っています。イエスがこのことについて語らなかったので、パウロは忠実な使徒として、自分の意見、判断、または助言を与えると言いました。

彼のアドバイスは「人は現状にとどまっているのがよい」というもの。これは、神が天地創造の時に言ったことと反対であることに注目してください。神は、「人が独りでいるのは良くない」（創世記 2:18）と言いました。パウロはなぜそう言ったのでしょうか。「その身に苦労を負うことになるでしょう」と言います。これはある理由のための特別な規定です。

神は「人が独りでいるのは良くない」と言いますが、パウロは一人でいるのは良いことだと言います。パウロは結婚が良いものだと知っていました。しかし、パウロがこう言うのは、「現在迫っている危機」によって引き起こされる「苦労」を味わってほしくないからです。たとえ結婚が罪ではなくてもです。

（2） 時が縮まっている

パウロは 1 コリント 7:29-31 でこう続けます。

「[29] きょうだいたち、私がこう言うのは、時が縮まっているからです。これからは、妻のある人はない人のように、[30] 泣く人は泣かない人のように、喜ぶ人は喜ばない人のように、物を買う人は持たない人のように、[31] この世を利用する人は利用しない人のようになりなさい。この世の有様は過ぎ去るからです。」

パウロは「この世の有様は過ぎ去るからです」が理由だと言っています。

イエスの死と復活によって、現在の形の世界は神の裁きの下にもたされています。神は新しい民、つまり私たちクリスチャンを、神の栄光ある性質を反映する者として確立しています。私たちのために、新しい天と新しい地が用意されています。この世の有様は過ぎ去ります。そのため：

「妻のある人はない人のように」なりなさい。私たちは妻を愛すべきです。しかし、これは私たちとイエスとの永遠の関係のための準備であることを理解してください。

「泣く人は泣かない人のように」なりなさい。「喜ぶ人は喜ばない人のように」なりなさい。すべての感情は一時的なものであることを理解する必要があります。「物を買う人は持たない人のように」なりなさい。私たちが持っているものはすべてが一時的なものです。「この世を利用する人は利用しない人のように」なりなさい。ビジネス、レジャー、その他何であろうと、世界を有効活用できる人は、それらに気を取られ、永遠のための準備を妨げられてはいけません。

子供たちがまだ小さかったとき、私たち家族の遊びの一つは、一緒にボードゲームの「モノポリー」をすることでした。皆それに夢中でした。時には、一人が高価な物件をすべて手に入れ、その上にホテルを建てることもありました。その結果、他のみんなは破産しました。

喜んで叫んだり、不満を言ったりしました。しかし、寝る時間が来たら、ゲームは片付けられることを知っていました。パウロも私たちにそのような態度を持つことを望んでいます。時が来たら、今の世界は片付けられます。「今持っているもの」は「人生の目的」ではないからです。

（3） 大事なことに心を遣う

1コリント 7:32-34

「[32] 私は、あなたがたに思い煩わないでいてほしいのです。独身の男は、どうすれば主に喜ばれるかと、主のことに心を遣いますが、[33] 結婚している男は、どうすれば妻に喜ばれるかと世のことに心を遣い、[34] 心が分かれてしまいます。独身の女やおとめは、体も霊も聖なる者になろうとして、主のことに心を遣いますが、結婚している女は、どうすれば夫に喜ばれるかと、世のことに心を遣います。」

パウロによると、この理由で独身の人が結婚することを勧めないと言います。なぜなら、妻や夫に喜ばれるか考えるものだからです。夫は妻を愛するべきものです。そして、妻は夫に従うべきものです。それは正しいことです。しかし、「体も霊も聖なる者」になるのは大変難しい。

「聖なる」とは「聖別される」という意味です。独身の人は自分の体と霊両方を神のために聖別して専念することができ、神が望んでおられる人になることだけに集中できます。

1コリント 7:35

「[35] このように私が言うのは、あなたがたの益のためであって、あなたがたを束縛するためではありません。むしろ、あなたがたが品位を保ち、ひたすら主に仕えるようになるためなのです。」

パウロが望むことは、「主に仕えるようになる」ことです。常に主と共にいること、主の言葉を聞いて、主の言うことを行うことです。

私が米国のウイルス学の研究室で働き始めたとき、アルゼンチンの研究者のアシスタントを任されたことを覚えています。彼は私を友人としても受け入れてくれました。何でも一緒にしました。一緒に仕事をして、一緒に食事をして、そして一緒にサッカー観戦をしました―彼はアルゼンチン人であるから当然ですね。

研究室にいたとき、彼は私にあらゆる小さなタスクを私に頼みました。「タケシ」と呼ばれたら、彼の元へ行きました。「これを遠心分離機に入れてください。これはインキュベーターに、これは冷蔵庫に」などと言われました。それはいつも私を困惑させました。彼が自分でやったほうがもっと早くできるのにと思いました。しかし、なぜか彼は私にやって欲しかったのです。

しかし、いつも彼と一緒にいて、彼の話を聞き、彼に言われることを何でもやっていたから、彼からすべてを学びました。自分のプロジェクトを始めるときには、

準備が整っていました。同じように、これが独身であることの利点です。いつもイエスと共にいて、いつもイエスの声に耳を傾け、いつもイエスの言うことをできる。

私が新米クリスチャンだったとき、まだ独身で一人暮らしをしていました。仕事が終わったら、帰宅して、夕飯を食べて、お風呂に入り、そして最後は一日のうちで一番好きな時間、つまり聖書を読む時間を持ちました。

まずベッドの脇にチーズやナッツなど、お気に入りのおやつを用意していました。ベッドに丸まって、最後に読んだ聖書箇所から再開しました。ちょっと休憩が必要なときは、クリスチャン音楽を聴きました。とても平和でした。そして、その後に寝ました。

翌朝、私は早く起きて、コーヒーと朝食を味わいながら、キッチンのテーブルでさらに数時間聖書を読んだり祈ったりしました。今は、結婚して 28 年たちました。神と充実した時間を過ごせますが、短くなり、決して独身の時と同じようにはいきません。

パウロが言っているのは、私たちの目標は、主に仕えることであり、そうすることで、私たちは「イエスの聖なる性質」を身にまとうことです。独身はそのための明確な長所です。

私たちが主に仕える時、つまり主と共にいて、主に耳を傾け、主の言うことを行うとき、私たちは自分がどれほど愛に欠け、赦さない心を持って、聖くないことが分かってきます。そして変わろうとします。私たちは違った生き方を始めるでしょう。

しかし、その後、何かが起こります。誰かを嫌いになったり、不道徳な習慣にとらわれたりします。そしてまた変わろうとしますが、できないことに気づくのです。その時、狼狽えて自分の救いを疑いさえします。

そこで「福音」つまり「神さまの知恵」を思い出します。謙虚に自分がどれほど罪深いかを告白し、十字架を通してイエスの赦しを受け入れ、イエスに助けを求めます。しかし、それでもしばらくは変わりません。それでも、求め続けていれば、その謙虚さの中で、ある時気づきます。「憎しみの心」や「不道徳な習慣」がなくなっていることに。ほんのわずかでも。これには主に仕えることが求められます。パウロは言います。「だから、独身のままでいる方がよい。そうすれば他の事よりも主に仕えることに専念できます」

1コリント 7:36-40

「[36] もし、ある人が、婚期に達しているおとめに対して、そのままではふさわしくないと思い、また、やむをえないならば、望みどおりにしなさい。罪を犯すことにはなりません。結婚すべきです。[37] しかし、彼がしっかりとした心を持ち、無理をしないで自分の思いを制することができ、相手のおとめをそのままにしておこうと心の中で決めたなら、そうしたらよいでしょう。[38] ですから、相手のおとめと結婚することは差し支えありませんが、結婚しないほうがもっとよいのです。[39] 妻は、夫が生きている間は結ばれていますが、夫が死ねば、望む人と再婚してもかまいません。ただし、相手は主にある人（注：クリスチャンの意）に限ります。[40] しかし、私の考えによれば、そのままでいるほうがずっと幸せです。私も神の霊を受けていると思います。」

「おとめに対して、そのままではふさわしくないと思い」の箇所には、「おとめである娘」とする訳もあります。個人的には、引用している CSB が理にかなっていると思います。パウロは婚約者の男に語っているのであり、相手の父親ではありません。
「婚期に達している」という箇所に対して「情欲を抱くようになった場合」という訳があり、こちらが文脈に合っていると私は考えます。

パウロによれば、婚約した男性が結婚することは「よいことだ」と言っています。もし婚約のままでいたり、独身でいたりする場合、「もっとよい」と言います。違いは「よい」と「もっとよい」です。重要なのは、独身であろうと既婚者であろうと、主に自分を捧げて仕えることです。

もしクリスチャンでない、または主に仕えていないのであれば、主に仕えるよう勧めます。イエスによって、主の民となり、主の性質を身にまとって、「来るべき王国」に備えましょう。

定のない限り聖書は協会共同訳を使用しています。
聖書 協会共同訳: ©日本聖書協会
Japan Bible Society, Tokyo 201

キリストのことをもっと知りたい
洗礼を受けたいという方はこちら
メール：cc@tokyobaptist.org
もしくは：https://t-b-c.us/cc

TBC Life 申込み
（毎週届くメールニュース）
http://t-b-c.us/tbclife

SG レッスンの PDF
https://t-b-c.us/sg1425jp

★クラス 210
スモールグループについて学ぼう
4月13日(日)1pm - 5pm
場所: ランゲホール(B1)
参加条件: どなたでも

★クラス 301
賜物発見クラス
4月19日(土)1:30pm – 5:30pm
場所: ランゲホール(B1)
参加条件: クラス 101/201 を修了した教会員

全クラス申し込み：https://t-b-c.us/classes

オンライン献金
http://t-b-c.us/give

スモールグループ参加申込み
http://t-b-c.us/sgsu

奉仕者募集中！

1．日本語訳字幕作成（1名募集）
月 1～土曜日 16 時に TBC にて作業します。
Mac でプロプレゼンターというソフトで作成しますが、1，2 回のトレーニングで簡単に覚えられます。作成後、土曜日 19 時の礼拝の日本語訳字幕オペレーターもお願いしています。
スキル：英語を聞いて日本語がどこを話しているかわかる程度の英語力

2．週末礼拝メッセージ翻訳（3名募集）
1 か月半に 1 度くらいのペース
自宅での作業になります。
英語のメッセージ原稿を日本語に翻訳します。
スキル：英語と日本語が堪能な方

3．日本語訳レイアウト&印刷（女性 3 名募集）
月 1～土曜日 16 時に TBC にて作業します。
MS Word を使用してひな形に入れてレイアウトし印刷します。
スキル：MS Word の操作ができる方。
英語のスキルは必要ありません。